

鳳 陽

—— 開学の祖「上田鳳陽」先生 (1769～1853) の教えを汲み ——

第168号

令和2年1月15日

発行所 一般社団法人 鳳陽会
(山口大学経済学部同窓会)
〒753-0089 山口市龜山町3-1
TEL・FAX (083) 924-4361
E-mail : houyou99@crocus.ocn.ne.jp
印刷所 株式会社マルニ



SLやまぐち号

(撮影：学18 田中 節生)

令和2年 新年のご挨拶



理事長
吉岡 博美 (学18)

明けましておめでとうございます。皆様におかれて

は、健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年の鳳陽会においては、多くの支部で新しい動きに取り組みその成果が期待されますが、その背景には様々なアイデアや工夫が見られました。このよう

な動きを共有し、更に深くそして広がりを持って行ければと思います。また学部教育の充実を企図した多額のご寄付を賜り、学部との重なる協議の上、新たな奨学金制度もスタートできました。

学部においては、昨年の入学志願者は好調の上、卒業生の就職状況も堅調でありました。このところ働き方改革が流れとなりつつありますが、その中においても、新社会人となる卒業生には、同窓各位の持つ良き資質である勤勉、誠実さは失うことなく受け継いでいつて貰いたいものです。

令和(Beaautiful peace)の時代となり年は明けても、その名に込めた期待のようには中々行かないようです。米中貿易問題、日韓関係、中東、欧州情勢など不安定で、政治的、経済的に直接的な影響が懸念されます。また国内では大型の自然災害が多発しています。このような何かと生活や事業に及ぼす大きな影響がある中、同窓の集まりたるこの会が、様々な意味において一つの拠り所となればと思います。

最後にりましたが、この一年、ご家族共々益々のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶いたします。

行事予定

○3月24日(火)
経済学部

「卒業祝賀会」

ユウベルホテル松政

(山口市湯田温泉)

○6月6日(土)

鳳陽会

「第90回 通常総会」

リーガロイヤルホテル広島

(広島市中区基町)

学園だより

公認会計士試験合格

現役4名、卒業生2名!

(3年生1名、4年生3名、卒業生2名)

職業会計人コース委員会

委員長 山下 訓

令和元年11月15日(金)に金融庁より公認会計士論文式試験の発表があり、職業会計人コースでは3年生の佐野海斗さん、4年生の岩永篤樹さん、中村旬花さん、平川優太さん、卒業生の大前航平さん(学67)、内田真央さん(学66)の現役4名、卒業生2名、計6名が合格しました。合格率は10.7%です。よく頑張ってくれました。

正直に言うと、昨年同様もう少し受かるかなと思っておりました。先輩による後輩指導等により順調に学生全体の学力が向上し始め、お陰様で層が厚くなり、今回の論文試験受験者は19名(3年生3名、4年生10名、卒業生6名)を数えるまでになりました。その意味では合格率は1/3です。この数字は論文受験者全体と合格者の比とほぼ同じです。不合格者の中には0.05%点数が足りず落ちた学生もおり、掛ける言葉がありませんでした。しかし、今回は残念なことに結果が出なかった短答式合格者は12名(3年生2名、4年生6名、卒業生4名)お



り、来年はきつと頑張ってくれることと思います。また、2年生・3年生のなかにも有望な学生が沢山いるので来年の論文受験者は今回の合格者以上に増え、なんとかこの層の厚みは維持できそうです。

なお、鳳陽会を始め多くの方からの寄付を使い、短答合格者には一切の負担無しでフィリピン、セブ島で6週間の語学研修をし、世界に通用する職業会計人の育成を目指しております。鳳陽会を始め御寄付して下さいの皆様にはこの紙上でお借りし衷心より御礼申し上げます。上げる次第でございます。



令和元年フィリピン

夏期英語特訓留学報告

経済学部特命教授

山根 和明(学15)

昨夏9月1日より9月29日までの約1カ月間、フィリピン、バコロド市(セブ島隣り)のサン・アガステイン大学付属語学センターLCSにて、毎日10時間の特訓授業、きついけど楽しい(参加者談)充実した留学を体験して無事帰国いたしました。帰国後、学生たちは口々に「もう少し滞在したかった、もっと英語を勉強したかった」と感想を述べ、今後の国際理解、英語学習に一層努力すると決意を新たにしています。(彼らの感想文をすべて掲載できないのが残念ですが...) 追伸、昨年度からスタートしました『英会話』のクラスは、外国人留学生を10名使って鍛えまくるので、1学期で英語が話せるようになります、しかも楽しい!と人気のクラスになっていきます。来年度も前期に実施します。外国人留学生1名に受講生3名の形をとりますので、30名程度しか採れず、抽選にするのが悩ましいところです。

なお、今回は兵藤学部長へも現地視察をお願いし、大学、語学センターでの学生たちの勉強ぶりを見て、感心され、また安心していただきます。これまで7年間、毎年40名程度(延べ280名)の学部生をフィリピン英語留学に送り出してきましたが、効果は絶大です。多くの学



英会話クラスの様子

フィリピン短期留学を
視察して

経済学部長

兵藤 隆(学37)

このたび、フィリピン語学研修にでかけた総勢28名の当学部(一部、他学部を含む)学生の様子を視察するため、令和元年の9月20日より22日まで、現地に向いてまいりました。

これまで7年間、山根先生のご尽力をもって続けてこられた経済学部独自の語学研修ですが、学部長としては初めて現地視察をしたこととなります。当学部の卒業要件がTOEIC 400点であることはご周知のとおりですが、一部ご

父兄からも「なぜ英語の学習のためにフィリピンなのか」というご質問をいただく機会も多く、また本年よりサン・アグスティン大学附属LSLCへと研修先を変更したこともあり、一度、現地を訪ねてみようと考えたのがきっかけでした。欧州、米国に比べて留学コストが安いというのは誰でもわかることですが、保護者として一番心配なのは治安と学生たちの生活サポート

だと考えます。そこで、当方も彼らと同じドミトリー(寮)で三日間生活させていただきます。

学生たちと食堂で同じ食事をさせていただきましたが、学生たちが「外食もするが、寮のごはんが一番おいしい」と言っていたのが印象的でした。食べざかりの学生さんたちですから、おいしいごはんを自分の好みに合わせて量を調節しながら朝、昼、晩と三食きちんと食べられるのはありがたい環境だと思います。また、寮への入退室は指紋認証で管理されており、学生の安全に対しても十分配慮されていました。



滞在最終日には、夜8時ごろ近辺を散策してみました。現地の女性が一人で歩いて移動していましたので、マニラ市内やセブ島などと比べてもバコロドははるかに治安が良い状況だと推察されます。ストリートチルドレンと言われる子どもたちもほとんど見当たりませんでした。ネグロス島にあるバコロドは人口が56万人ほどの都市ですから、大型ショッピングモールも複数整備され、学生たちは「〇〇がない」と困るようなこともなさそうでした。

肝心の語学研修です。教室での座学もありますが、主は講師とのマンツーマン英会話だろうと思います。半畳ほどの狭い個室で60分間つきつきり英語で会話を「させられます」ので否が応でも「ヒアリング」能力は鍛えられます。次は、自己発信のための「スピーキング」能力ですが、ここは一両日というわけにはいかないようでもありました。ただし、学生たちは日本人であることの再確認と、自国文化や風習をどのように伝えなければならぬのかというアイデンティティのあり

方については強く意識せざるえませんので、これは留学でしか得られない経験だろうと思います。当方も体験授業ということで、半畳のオフィスで60分間講師と対話をさせていただきました。非常に流暢な英語で、いわゆるアジア訛りはほとんどありません。素晴らしい環境だと確信しました。

最後に、現地の日本人スタッフ宮崎さんの存在が大きいことも付け加えておきます。彼女が学生たちの細かいところまでケアしてくれることは彼らにとっても大いなる安心につながっています。ある学生が笑顔で「最初はつらかったけど、今はあまり日本に帰りたくないのですよね。でも後期の授業もあるしなあ」と私にこぼしてくれたのはこの語学研修のすべてを物語っていると思います。あとは学生たちのその後の成果がどれだけだったのか。それを楽しみにしているところです。

HITACHI
Inspire the Next

あなたの会社の物流に、知能を。

IoTや人工知能、ロボットなど、最先端の情報技術と物流技術を活用して、最適な物流システムをお客様に提供する。日立物流は、スマートロジスティクスで、物流の新しいあり方を生み出しています。

ビジネスを未来へ運ぶ、
SMART LOGISTICS

株式会社日立物流 www.hitachi-transportssystem.com
名譽相談役 山本 博巳(学10期)

日立物流

LISLCに留学して

経済学部1年 今西大空

私はこの留学に行つて良かったと思つています。日本にいた時までは、この留学での目標は英語力向上だけでした。もちろんフィリピンに行つてからもその目標を継続して掲げていましたが、私はフィリピンに着いてから新たな目標を掲げました。それは、外国人と積極的に関わっていくことです。留学だから外国人と関わるのは当たり前で、そんなことを目指す必要はないだろうと思う人もいるかもしれませんが、私はこの目標を掲げておかなければこの留学に行つて良かったと思わなかつたでしょう。

この留学の欠点は団体留学であることです。私はフィリピンに行く前からこのことについて少しだけ心配していましたが、案の定フィリピンでは多くの山大学生が山大生同士で常に行動していました。私にとっての留学は、寮でも、大学でも、休みの日でも常に他の国の人と行動を共にしているものでした。もちろん日本人の友達もとても大切に

すが、私はこの留学ではなるべく日本人といることを避け、常に他の国の人と一緒にいるよう心掛けました。

そのおかげで誰よりも外国人の友達を作り、彼らと長く濃い時間が過ごせたと自信を持って言えます。私たちの経験が後輩の皆さんに今後活かされるのであれば、私はこの事実・注意点をしっかりと伝えたいと思います。この留学では、この点さえ注意して自ら動いていけば、必ず自分にとってかけがえのない経験になることを私は断言します。

良かった点について述べるとなると、本当に数えきれないくらいの利点がありました。特にOne-On-Oneの授業は先生方の生徒に対する姿勢が素晴らしく、感謝の気持ちから何としてでも英語力を向上させなければと思うことができ、授業が苦になることはありませんでした。欧米圏へ留学したことがないので断言はできませんが、このOne-On-One授業のおかげで授業中は常に英語を話している環境にあったのでとても良かったです。

私の想像していた以上に



今回の留学で得られたものが多く、本当に行つて良かったと思つています。今でも彼らと連絡を取りあつていることも、今の自分のエネルギー源になつていることに間違いありません。

最後に、最初から最後まで私たちの留学のために尽力してくださつた山根先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

使つて成長していく学生が増えていくことを祈念しています。

短期特訓留学に参加して

経済学部1年 藤田大地

私は今回の留学を通して人として、また英語を学ぶ学生として、大きく成長できたと思つている。

成長の要因として、中でもマンツーマンの授業はかなり効果的であつたと感じていた。最初

のうちは恥ずかしかつたり、聞き取れないときの不安があつたりと集団の授業に比べ負担が大きいの。しかしその分、確実に英語力が向上する上に、その成長を感じやすいため、英語を勉強しても終始楽しむことができた。また、マンツーマンの先生はもちろんのこと、それ以外の先生方との交流も増え、授業で学習した英語の技能を多く活用することができ、より一層成長を促すことができた。

授業では、単に英語の勉強だけではなく、フィリピンの文化や歴史も知ることができ、海外により興味を持つことができた。今回の留学では、日本語ボランティアや孤児院訪問などの活動も用意されていたため、それも自分を成長させる大きな要因となつた。特に、日本語ボランティアは英語を使いつつ、日本語を教えるといったかなり難易度の高いものであつたが、教える内容を考えたり、先生の立場になつて考えてみたりと苦労以上に得たものは多かつたと思う。

今回の留学は、これからの英語学習における基礎を固めるとともに、もう一度海外に行きたい、お世話になつた先生にまた会いたい等、自分の英語に対する学習意欲に火をつけるものとなつた。確かにフィリピンはアメリカやヨーロッパに比べ魅力や利便性は低いかもしれない。しかし、英語を学習するにあつての受け入れ態勢や英語のレベルは決して劣らないものであると思う。さらにストリートチルドレンやスラム街など、日本では見られな

い光景を目の当たりにし、これらの問題解決のために自分ができることはあるのかと真剣に考えることができた。

以上のように、今回のフィリピン留学が私に与えた影響はかなり大きく、これからの大学生活で何をしたいか何をすべきかを決定させるものとなつた。例えば、留学以前は学科を決めあぐねていたが、今回の経験から経済学科の国際経済を学びたいと思うことができた。また、大学内で行われている留学生ボランティアに参加し、英語の向上を図りたいと考えている。



最後になつたが、今回の1カ月は、まさしくかけがえのない有意義なものであつたと確信している。

アンケート結果に基づく具体策への取組

これまでの実績と今後の取組について

鳳陽会創立110周年を期して、鳳陽会活動の基盤強化と活性化のために、鳳陽会の全国40支部を対象としたアンケートを実施し、その結果を踏まえ、鳳陽会の今後の展開方向「アンケート結果に基づく具体策への取組」を決定し、これまで取組を進めてきました。

これまでの取組実績と今後の取組について報告します。

1 これまでの取組

(1) 組織運営体制の強化
鳳陽会活動の基盤を強化するために

明治41年(1908年)設立から110年以上経過し、鳳陽会会員数は2万人に迫っていますが、相当数の会員の皆さんの動静が把握できていません。

このため、平成29年11月、本部の把握している最新の会員データを各支部に送付し、各支部で整理、突合、確認作業を行い、会員データの更新・充実に向けた取組を実施しました。また、

本部からは、毎月、会員の異動情報を各支部にお届けしています。

また、新規卒業生・新会員の連絡先を把握するため、経済学部卒の卒業記念パーティーに鳳陽会役員も毎年出席し、支部連絡先資料の提供や、卒業生との積極的な交流に努めています。

会員の動静把握は、鳳陽会活動の基盤となるものです。「住所不明者」の動静をご存じの方は本部又は所属支部まで、是非、ご一報をお願いいたします。



(2) 鳳陽会創立110周年の節目に、鳳陽会活動を活性化するために

□ 支部活動の支援

鳳陽会は厳しい財政状況にはあり、平成28年度には

支部援助費を完全に廃止しました。しかし、支部活動の重要性を踏まえ、支部の円滑な運営を目指し、平成30年度、単年度限りの「支部支援費」を給付しました。

支援総額は、過去5年間の支部援助費の支給総額約630万円を用途とし、支部への配分に当たっては、各支部の所属会員数及び年会費の納入会員数、納入金額を基準としてそれぞれの配分額を算出して、活動を停止している支部を除く、全国37支部へ給付しました。

□ 機関誌「鳳陽」の発行・充実

鳳陽会創立110周年を記念して、平成30年10月、機関誌「鳳陽」の鳳陽会10周年記念号を発行しました。

この記念号では、岡正朗山口大学長、兵藤隆経済学部長と吉岡博美理事長の鼎談や、各支部の紹介、会員からの投稿、「アンケート結果に基づく具体策への取組(概要)」を特集しました。

また、機関誌「鳳陽」の印刷経費については、これまでの一社との随意契約を改め、三社から相見積書を徴することにより経費の削減を図りました。

機関誌「鳳陽」の内容を充実するためには、会員の皆さんの投稿が不可欠です。会員の皆さんの積極的な投稿をお待ちしています。

□ その他の取組

平成22年から平成28年まで講義形式で開講してきた鳳陽会寄附講座の見直しを行い、講師と受講生が双方で意見交換を行うことができるゼミナール形式に変更して平成30年再開しました。なお、令和元年は休止しましたが、令和2年には再開する予定です。

・ 鳳陽会会員4名が就職アドバイザーとして経済学部生の就職相談に対応するとともに、企業の人事担当者と就職アドバイザーが、模擬面接を実施しています。

・ 山口大学、経済学部の紹介資料や、山口の地域情報を、各支部の総会等で配付しています。

・ 山口で開催する同期卒業生やゼミナールOB生の会について、経済学部視察日程の調整を始めとする支援に取り組んでいます。

・ 老朽化した鳳陽会本部のパソコン2台を更新するとともに、「名簿管理システム」を改修(システム稼働ソフトウェアをウインドウズXPからウインドウズ10へ移行)し、本部情報システムの改善を図りました。

情報掲載できるように仕組みについても検討をしています。新たなホームページは、今年4月の運用を目指しています。

□ 全国支部長会議の開催

平成30年6月16日、第88回通常総会の開催に合わせ、全国支部長会議を開催し、今回取組の周知徹底を図りました。



2 今後の取組

(1) 本部ホームページの改善・充実等

本部ホームページの刷新作業を進めています。会員情報等の個人情報保護の観点から、各支部の情報管理者も定め、個人情報の厳格な取扱い方針を定めることとしています。その上で、本部のホームページに各支部の情報管理者がアクセス

し、情報を掲載できるように仕組みについても検討をしています。新たなホームページは、今年4月の運用を目指しています。

(2) 寄付制度の創設

鳳陽会活動の活性化に向けた資金確保の一方策として、会員の誰からも寄付金を受け入れることができる仕組みづくりについて検討を進めています。

具体的には、年会費納入用の郵便局の「払込取扱票」を一新し、これまで金額欄に年会費金額の3,000円を印刷していましたが、空欄として寄付金も含めた金額を記入し、寄附ができる形とする方向で検討を進めています。令和2年5月発行の機関誌「鳳陽」第169号に同封して、新しい払込取扱票をお届けできるよう、現在、準備を進めています。

引き続き、「アンケート結果に基づく具体策への取組」を進めてまいります。会員の皆様には、ご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 石島

「鳳陽会」は、皆様方の年会費を基本にして運営しています。

支部だより

北海道支部

令和元年度

懇親会を開催

7月13日(土)午後6時より令和最初の懇親会を行いました。冒頭に今年度より支部長に就任された木村さんよりご挨拶があり、最長老の前支部長の出口大先輩(高商42)の乾杯のご発声で始まりました。宴会は昨年に引き続き豆腐懐石料理「梅の花 札幌店」が会場となりました。

今年度は当支部最若手の八木さん(学62)が転出し残念に思っていたところ、東京支部から山田さん(学36)が札幌に転勤され、会員数14名を維持することができました。今年も昨年引き続き11名の参加となり、会員数こそ少ないものの高出席率となりました。

20数年ぶりの参加となった増田さん(院6)、転入で初参加の山田さんを交えて会員相互の情報交換がなされ、楽しい時間を過ごしました。体調不良で欠席された三浦さん(学38)からお酒

の差入れをいただき、この場を借りてお礼申し上げます。

名残尽きない当日の歓談ではありましたが、昨年取り忘れた記念写真を撮り、散会いたしました。

なお、翌日は札幌南ゴルフクラブ駒丘コースにおいて有志でゴルフをされたようですが、成績の程は如何だったのでしょうか？

(学29 平川 記)

【出席者】(敬称略)

出口元治(高商42)、原田敏幸(学10)、中村俊治(学22)、古川彰夫(学22)、木村正道(学23)、琴野三規夫(学24)、近藤次郎(学25)、平川雅晴(学29)、藤本悟(学33)、山田隆士(学36)、増田辰良(院6)



名古屋支部

第三〇回

懇親ゴルフ会

令和元年十月二十六日(土)、第一三〇回懇親ゴルフ会を開催しました。スタート時点では曇りがちで少し天候が心配でしたが、その後は晴れ間が広がり、穏やかなゴルフ日和の中でラウンドを楽しみました。

今回は、鳳陽会のコンペでは初めてではないかと思われ、岐阜県の法仙坊ゴルフ倶楽部での開催となりました。慣れないコースに難しいグリーンと、皆さんのスコアは不本意だったのではと推察いたしました。

また、毎回参戦の定連メンバーにもそれぞれ事情があつて参加も少なく、わずか二組五名での寂しいゴルフ会となりました。

結果は下記の通りで、ダブルペリアのおかげで川村が多分、二回目の優勝を飾ることとなりました。

次回、第一三二回は、四月に愛知県下のゴルフ場での開催を予定しています。

【成績】(ダブルペリア方式)

優勝 川村 恒治 N 78
準優勝 乾 昌博 N 85
第3位 中谷 洋一 N 85

【参加者】(敬称略)

乾 昌博(学9)、吉山嘉久(学17)、川村恒治(学22)、中谷洋一(学29)、大田栄治(学38)
(学22 川村 記)



ホームページのご案内

名古屋支部のホームページは『鳳陽会』で検索されると『名古屋支部』が出てきますのでどうぞご覧ください。転勤等で東海地区に来られた方もぜひホームページから名古屋支部にご連絡ください。

京滋支部

支部総会開催

令和元年11月9日(土)、秋晴れの絶好の行楽日和の中、リニューアルし、名称を変えた京都駅前「都ホテル 京都八条」にて令和元年鳳陽会京滋支部総会を開催致しました。

山口より兵藤経済学部長様と石島事務局長様をお迎えし、高商36期から大学29期まで総勢16名が参加しました。

を代表して兵藤様からは、別便で送付された資料を配布し、母校の現況報告と協力要請がありました。

はじめに、記念撮影し、物故者に黙祷した後、高商校歌を斉唱して総会がスタートしました。この日の支部総会が、前身の京都支部から数えて、連続通算798回の月例会にあたり、三坂支部長からは、諸先輩方が築いてこられた伝統を継承するとともに、関西地域3支部長が初めて揃い踏みとなった今支部総会で更に交流を深め、ラグビー日本代表の大躍進にちなむ「ワンチーム」となってオール関西で盛り上げていきたいとの力強い挨拶がありました。

例年通り、収支報告、監査報告があり、併せて寄贈桜の状況、支部会員動向、次年度行事予定が説明され、総会は無事終了いたしました。



大阪支部

令和元年度大阪支部 総会・懇親会開催

商、大学と世代間を超えて、懐かしい学生時代を語り合いました。ご来賓の石島様、羽根大阪支部長様、野口神戸支部長様のご挨拶があり、久しぶり参加の森耕作様、初参加の田中誠一様のスピーチで盛り上がりも最高潮のところ、檄を飛ばし、全員で鳳陽寮歌を放歌高吟、大学学生歌を高らかに歌い上げ、今年の大河ドラマ「いだてん」に勝るパワーを爆発させました。

令和元年5月25日(土)正午から「神仙閣大阪店」において、令和元年度鳳陽会大阪支部総会が開催されました。今年の出席者は94名で、高商卒が3年ぶりに0名となったものの、今年卒業した5名に出席していただきました。

来賓には、母校から兵藤隆経済学部長、吉岡博美鳳陽会理事長にご出席していただきました。

最後に京滋支部前支部長の山岡先輩から水道事業の思い出にちなむご挨拶と力強い一本締めで、来年も元気にお会いしましょうと約束し、散会いたしました。

【来賓】

兵藤隆 経済学部長(学37)、石島克幸 鳳陽会事務局長(学26)

【出席者】(敬称略)

中西雄太郎(高商36)、安藤伸三郎(学4)、山岡誠(学5)、森耕作(学13)、西田稔(学15)、小林貞夫(学17)、三坂直彦(学18)、田中正美、川原章(学19)、河村正昭、野口裕(学21)、田中誠一(学23)、原英二(学25)、羽根彰(学29)

(学19) 川原 記

支部長の挨拶に続き、議事に入り事務局から平成30年度事業報告及び会計報告並びに佐藤監事から監査報告があり、満場一致で承認可決されました。引き続き新役員執行部選任議事が諮られ、支部長はじめ旧役員執行部が満場一致で再任されました。その後令和元年の事業計画、予算案が諮られ、これも満場一致で可決されました。此処で、支部長



から、支部財政健全化に向けて事務局も努力をします。が限界がある為会員の方にも会費納入のお願いをした。この呼びかけが行われ、またホームページを開設し会の活性化を図って行く旨の報告がなされました。

その後、12時30分から、ご来賓の方の紹介、新人5名の自己紹介、物故者黙とう後、最年長会員の乾杯で懇親会は幕を開け、近況報告やら学生時代の思い出話を交わされました。最後に、多田修三さんはじめ有志の方が壇上に登り恒例の檄文、鳳陽会寮歌の斉唱を行い会



場は最高潮に達し、田中前支部長の万歳三唱で会は幕を閉じました。

その活気を持ち込む形で2次会にも50名超の幅広い世代の参加とともに、来賓の2名の方も参加していただきました。

今年を期を越えての繋がりを持つて貰うという試みとして会員の出身地別に席を設定しました。若い人の参加も増えて例年以上に活気を帯びたように感じられました。今年5月23日(土)の開催を予定しています。近隣にお住まいの方も関西に来てみたいと思われ方も、多くのご参加をお待ちしています。

第一回関西 ゴルフ三経戦

令和元年7月20日に「第1回関西ゴルフ三経戦」が関西クラシックで開催されました。三経戦と言え、大学時代に戦った経験のある方も多くおられると思いますが、長崎大学経済学部(瓊林会)・大分大学経済学部(四極会)・我が母校(鳳陽会)との交流戦です。

今回の話の始まりは羽根支部長、瓊林会・濱田支部長、四極会・大石支部長が同じ勤務先であり交流があつたことからです。初回三経戦幹事は大分大が務めていただき、打ち合わせ兼懇親会も詳細な準備のお蔭でスムーズに進み、当日を待つばかりとなりました。

心配された悪天候予報も奇跡的に回避され、コンペは瓊林会13名、四極会17名、我が鳳陽会12名の参加で開催されました。我が鳳陽会は学19期から学65期(なんとデビュー戦)と幅広い参加となり、他の会にない幅広い層の戦いとなりました。競技としては、最少参加会の人



数に合わせたネットスコアの合計での団体戦と個人戦で実施し、結果は四極会が1位、2位は瓊林会、3位は鳳陽会となりました。個人では弘田功さん(学31)が3位でした。その結果で次回は鳳陽会が幹事となりました。

ご参加下さった皆様には、ゴルフだけでなく交流そのものを楽しんでいただけたものと思います。母校の名譽に懸けて戦った大学時代の様な気分に戻る一時を皆様も再び味わってみませんか。

【参加者】(敬称略)

上山秀夫、安谷国生、田中正美(学19)、坂本正志(学22)、谷信(学28)、羽根彰、草野浩二(学29)、田中尚夫、松原一幹(学30)、弘田功(学31)、望月淳司(学38)、深山慶二(学65)

— 現役懇親会について —

11月30日(土)、師走目前の肌寒い中、大阪支部では若手・現役を中心に懇親会を「がんこ寿司曾根崎本店」で開催しました。

前日まで53名の出席が確認されたのですが、前日夕方から仕事の段取りが付かなくなつた、風邪、インフルエンザとこの時期特有の現象が事務局に入り、会場には前日夕方に49名で最終確認を入れました。会場では人数が多いので少し狭くなりますがご了承くださいとの連絡が入りました。当日バタバタと5名風邪等で欠席の連絡が入りました。また直前で上手く連絡付かず2名出席できない状態になりましたが、兎に角43名の25期から67期までの方が出席していただきました。

羽根支部長の挨拶、新人の乾杯で会は幕を開けました。流石に40名超の会は迫力がありませんでした。総会とは全く違うリラックスティな雰囲気では進行し20時半で終わりました。

この会は10年近く前に数名の若手で始まり連絡役の転勤等があったにも拘らず転勤先からの駆けつけ等の

「飲もうぜ」のネットワークが広がり50名近くまでの動きになりました。

今回は事務局の連絡ミスで場所を間違える人が数名見られました。

今後この会が活気あふれる関西ノリで多くの若人が関わっていただければと思います。

(学34 横出 記)

岡山支部

— 第7回山口大学岡山連合同窓会 —

11月24日に岡山市内のホテルにおいて、54名が出席し、第7回山口大学岡山連合同窓会を開催しました。

岡山連合同窓会は、霜仁会岡山支部、常盤工業会岡山支部、農学部岡山支部、鳳陽会岡山支部、岡山県内在任の本学卒業生を会員とする連合同窓会で、総会を3年に1度開催しています。

各支部の総会に続いて行われた連合同窓会では、高見正孝会長(鳳陽会岡山支部長の開会挨拶に始まり、新役員が選出された後、園尾博司新会長(霜仁会岡山支部長)から、岡山連合同窓会を一層発展させていきたい旨の

挨拶がありました。

その後、岡正朗 山口大学長から、「令和元年山口大学」と題した講演があり、大学の現状と改革の取り組み等について報告がありました。

引き続き行われた懇親会では、和やかな雰囲気の中で相互の交流が深められ、各テーブルで昔話に花が咲き大いに盛り上がり、次の再会を期して盛況のうちに閉会となりました。



挨拶する高見会長



懇親会の様子



出席者全員による記念撮影

尾道支部

— 令和元年度 尾道支部総会 —

令和元年9月7日、鳳陽会尾道支部総会開催に合わせ、全学部合同の総会を尾道グリーンヒルホテルで開催致しました。残暑厳しい時期でしたが、総勢11名にお集まり頂きました。

午後4時、村上庄蔵支部長の開会挨拶より始まりました。経済学部部長兵藤様と鳳陽会事務局長石島様には遠路よりご出席を頂き、また、ご講演をも頂き感謝申し上げます。また、公務多忙にも拘らず平谷尾道市長(教育学部卒)にもご出席頂き、当地尾道の今後の教育政策や観光行政等、話題豊富なお話を頂きました。そして例年中座されておられました。今年も二次会まで参加頂きました。平谷市長様と兵藤経済学部長様との談話のなか、尾道市と山口大学とのコラボが出来ることあればと、期待いたしました。

尾道市では、今年尾道港開港850年を迎えました。後白河法皇により、嘉応元年(1169年)備後国太田



荘(びんごのくに)におおたのしよう」という荘園の倉敷地に決定され、爾来港町尾道の誕生と発展した第一期黄金期時代、江戸時代には北前船で港が大きくなった第二期黄金期時代、明治時代の設立により海都市として発展した第三期黄金期時代。海事業業の国内トップクラスの集積地である、これからの尾道港の未来は、造船業などを主体とした「ものづくりの町」で、世界に誇れる技能の伝承と次世代への人材育成に取り組むことで、更なる海都市尾

「鳳陽会」の活動が拡大発展できるように、ご協力下さい

道の発展を目指しています。

【来賓】

兵藤隆経済学部長(学37)、平谷尾道市長(教育学部卒)、石島克幸事務局長(学26)

【鳳陽会会員出席者】

村上庄蔵(学3)、原田秀夫(学14)、小西理文(学15)、亀田茂登(学27)

(学27 亀田茂登 記)

徳山支部

―新会員を迎えての支部総会―

徳山支部では、令和元年7月12日支部総会を開催いたしました。

昨年の本部通達による会員の「洗い直し」を契機に、24名の新会員登録をすることができ、今回の総会には4名の新会員共々総員22名の出席で賑々しく実施いたしました。

総会の企画進行は若手幹事により進められ、新会員の自己紹介からビンゴゲームまで大いに盛り上がりました。

そして支部長につきましても廣谷勝永(学7)より猪熊孝一氏(学18)にバトンタッチすることが承認されました。

本部関係者及び支部会員の皆様には永らく大変お世話になりました。前支部長として心より御礼申し上げます。

(文責 廣谷)

【参加者】(敬称略)

石倉英士(学4)、河野喜行(学6)、柳正三(学7)、廣谷勝永(学7)、松村千昭(学16)、猪熊孝一(学18)、辰川泰朗(学20)、田中孝(学24)、右田正和(学25)、杉村祥式(学26)、藤井武(学27)、森永典子(学28)、藤田真治(学31)、山田郁雄(学31)、寺岡裕信(学40)、弘中健太郎(学46)、磯部英昭(学46)、秋本佳吾(学48)、高橋裕和(学49)、磯奥優(学51)、清瀬寛(学61)、竹下幸恵(学64)



―支部長就任のご挨拶―

このたび徳山支部長を任されることになりました。

徳山支部は総勢約100人の会員がおります。今後新しい執行部としては、特に若い会員の方に積極的にご参加していただき、徳山支部が一層盛んになるよう尽力していく所存です。

猪熊孝一(学18)



福岡支部

―秋季親睦ゴルフ会―

夏の猛暑もようやく収まり、ゴルフをするには絶好の季節となった、9月26日(木)、筑紫ヶ丘GCで17名のメンバーが参加し、熱の入ったプレーで「令和」最初のゴルフ会を大いに盛り上げました。

結果、トップ争いは名前前に「和」のつくお二方がすることとなり、新しい元号を祝うかのような親睦の会となりました。

結果並びに参加者は次のとおりです。

【成績】(敬称略)

優勝 鬼木 和夫(学17) 準優勝 松田 和男(学21) 3位 林 颯二郎(学18)

【参加者】(敬称略)

鬼丸修一、重松英生(学12)、木下兼吉(学13)、川寄正比古、古澤正道、八尋洋士(学14)、岩城紀彦(学15)、鬼木和夫、馬場喜幸(学17)、林颯二郎(学18)、加藤久典(学20)、松田和男(学21)、松井茂(学22)、林田光博(学24)、石川利生、山口栄次(学25)、川上知昭(学26)



第26回三経会

親睦ゴルフ会

三経会親睦ゴルフ会も回を重ねること26回。年を重ね、その重みを増す大会になつてまいりました。他方面でも「三経会親睦ゴルフ大会」をやるうとの動きがあると聞きます。福岡支部も今後、ますます盛り上げてまいりたいと思います。

そんな中、令和元年10月17日(木)、今回も60名の精鋭が集い、熱戦を繰り広げました。結果、団体戦は惜しくも長崎大学に勝利を譲り

ました。来年こそは再び団体戦でも優勝して、声高らかに校歌を合唱したいと思っております。

そのためにも、今回16名の方々に参加していただきましたが、数は力なり、次回にはより多くの方に参戦していただきたいと願うものであります。

結果並びに参加者は次のとおりです。

結果並びに参加者は次のとおりです。

井澤金属は、金属の未来を見つめています。

【取扱品目】
 非鉄金属素材/アルミ・伸銅製品
 特殊合金/銅合金/精密鋳・鍛造品
 クラッド/FRP/超硬・研削工具
 粉末合金製品/電装パーツ
 電子部品/金型
 エレクトロニクス関連製品
 工作機械/環境改善製品/建築材料

井澤金属は、あらゆる産業分野に
 役立つ金属素材を提供する
 非鉄金属の総合技術商社です。

井澤金属株式会社
 取締役会長 井澤 武尚 (学12)
 本社 〒542-0081 大阪市中央区南船場1丁目13番10号
 TEL (06) 6262-1231 FAX (06) 6262-1233
 東京支店 名古屋支店 広島営業所 神戸営業所
 URL : http://www.izawa-metal.co.jp



その後、懇親会に移り、松波先輩の乾杯のご発声でスタート、昨年度より出席者は若干減少したものの、食が進み、酒が進み、酔いが増すにつれ、各々の近況報告、山口での学

その後、小宮幹事(学21)より平成30年度の会計報告があり全員異議なく承認されました。また、古藤支部長から支部長並びに代表幹事交代の動議がなされ、新支部長に小宮和広氏(現幹事)、新幹事に横山宏氏(学31)が選任されました。

生時代の思い出等々和氣藹々の中、賑やかで大いに盛り上がってまいりました。最後は、全員で「山都道遙歌・山口高等商業学校校歌・鳳陽寮寮歌」を斉唱したあと、新支部長より、「今後とも、会員の皆様のご支援・ご指導をよろしくお願ひします」との挨拶があり、来年の再会を約束して閉会いたしました。

【出席者】(敬称略) 松並頭(学3)、永原醇英(学10)、橋口健(学11)、石井誠三郎(学15)、古藤俊隆(学19)、古賀弘泰(学19)、福山正廣(学21)、小宮和広(学21)、吉富勝政(学26)

(文責 小宮)

【結果】
①団体戦 2位
②個人戦
優勝 川上 知昭(学26)
9位 立花 弘喜(学11)
【参加者】(敬称略)
立花弘喜(学11)、鬼丸修一(学12)、木下兼吉、西依雅(学13)、川寄正比古、八尋洋士(学14)、岡本真次郎、鬼木和夫(学17)、林颯二郎(学18)、加藤久典(学20)、松田和男(学21)、林田光博、渡邊龍雄(学24)、山川賀久、山口栄次、(学25)、川上知昭(学26)

令和元年度 支部総会を開催
令和元年11月15日(金)午後6時より、佐賀市の老舗「あけぼの旅館」にて、令和元年度支部総会を開催いたしました。
総会は、学3期の松並先輩から学26期の吉富君まで9名の出席のもと、古藤支部長(学19)より6月に行われた通常総会の報告を含めた開会の挨拶をいただきました。

佐賀支部



大阪支部鳳陽八日会のお知らせ

毎月第二土曜日12～14時の2時間、神仙閣大阪店(大阪市北区梅田1丁目3-1-1200 大阪駅前第1ビル12階 JR大阪駅から徒歩7分、JR北新地駅から徒歩1分)において、懇親会を開催しております。

毎回、貴重な勉強になるお話をお聞きすることができます。

年齢に関係なく自由に参加できますので、皆様のご出席をお待ちしております。

ご関心のある方は、事務局伊藤節(学29)までお知らせください。

京滋支部月例昼食会のお知らせ

京滋支部では毎月第3月曜日に、京都駅より徒歩7分、リーガロイヤルホテル京都の最上階回転展望レストランにて昼食会を開催しております。

近況報告や政治経済、スポーツ、山口での思い出等楽しい語らいの場となっております。皆さま是非お気軽に顔をだしていただければ幸いです。

【連絡先】

代表幹事：川原章(学19)
〒612-8318 京都市伏見区紙子屋町 554-13-411 号
TEL・FAX：075-622-3316
携帯電話：090-6660-1093
Mail：fgfhp584@yahoo.co.jp

本誌への広告のお願い

- ★1/3頁 40,000円
 - ★1/6頁 20,000円
 - ★1/9頁 15,000円
 - ★名刺版 5,000円
- 事務局では、皆様方からの広告掲載の申込みを募集しております。サイズ、料金は左記のとおりです。

～ 山口での同窓会の開催 ～

山口で同期の同窓会やゼミの同窓会などを企画している皆さん、是非、事務局にご相談ください。
同窓会に併せて山口大学経済学部を訪問されるのであれば、日程調整等をさせていただきます。山口観光ということであれば、相談窓口等を紹介・幹旋させていただきます。鳳陽館に来館されるのであれば、熱烈歓迎させていただきます。
まずは、お気軽にご相談ください。

鮎川義介 我が道を往く (第9回)

おもかけ

松野浩 二(学一)

1 長州訛

山口盆地に西から亀山という小さな丘が張り出している。この丘の周囲には、小学校、中学校、女学校、師範学校、高等学校が建ち並んでいて、山口県の文教センターの感をなしている。

鮎川家はその西麓の登山口にあった。生まれたのは、そこから樵野川を越えた大内である。小中学校の成績は普通で特に擡んでたものではなかったが、いたずらはかなりのものであった。中でも木登りが得意で、亀山を遊び場所にしていた。亀山山頂に旧旧山口高等学校の栗林があった。秋に



紀尾井町の自邸にて—昭和37年—

なると思友の岩根又重と二人で栗盗人になってたびたび忍び込んだ。ある時、鮎川が木に登りイガをもぎ落し、下で岩根がそれを剥いていると、「誰だ」という監視の声がした。「見つかった。逃げる」と、木から降りようと掴んだのが枯れ枝であった。5メートルの高さからつまさかさまに落ちて頭から出血した。手を当ててみるとイガだらけで氣を失った。家に担ぎ込まれて、医者に見てもらい、3針ばかり縫ったが、その傷跡は生涯鮎川の頭に残った。

12、3才の頃、山口にピリオンというカソリックの神父がいた。ソルボンヌ大学を卒業し、20才の若さでフランス訛りがあった。スコ・ザビエルを慕って来日し、山口で布教活動を行っていたが、父弥一が彼に感化され、ある日突然「天主教信者になったからみな洗礼を受けよ」と命令した。家中猛反対したが、家長の権限で押し切られた。100年以上前の田舎町のことである。日曜ごとのミサに出かけると、友達が路地に待ち伏せして石を投げてくるような有様であった。それでもミサに出席したのは、実のところ、日本人が容易に口にするのできなかったチョコレートやジャムにありつくことができたからであった。

幸運であったのは、そこで英語と漢籍を教わったことであった。ピリオン神父はフランス語を勧めたが、鮎川は英語を希望した。ここでは学校の授業とは違って、実用向きの英語であったから大変ありがたかった。ただその英語はかなり強いフランス訛りがあった。一方、鮎川は生まれてから20年を山口で過ごしているから、彼の日本語から長州訛り(山口弁)が消えることはなかった。つまり、彼の日本語は長州訛りで、英語はフランス訛りであったに違いないと、私は想像している。

2 後輩への忠告

なお、一家は父弥一がピリオン神父と仲たがいでいたので仏教に戻った。さらに後年、ピリオン神父の記念碑設立にあたっては、その費用の殆どを鮎川が寄付している。

鮎川は後輩の面倒見がよかった。困っている人には惜しげもなく援助の手を差し伸べたが、自分の名前を決して表面には出さず、他人を介して、そつと届けさせた。そして「人が困って金を借りに来るのだから希望額の倍を貸してやってくれ」というのが常であった。そしてすべて無利子で、返済を催促することはなかった。

田中儀一の長男、田中龍介(のちの山口県知事、代議士)は中学時代に父儀一を失い、父の残した多額の借財と幼い弟や妹を抱えて、大学進学をあきらめて日産自動車入社を考えたが、鮎川の勧めで進学した。大学を出て、満鉄に勤めた後、企画調査官に転出したので、鮎川に挨拶に伺った。その時の一言を生涯忘れることがなかった。

3 鴻南会

「役人を6年以上やった者は将来使いものにならない。その前に退官することだ」田中は調査官を6年つとめて退官した。

鴻南会でスピーチをお願いするときには、幹事はよほど打ち合わせをしておかないと、会の進行に支障をきたすことになる。何しろスピーチが止まらないのである。鮎川のスピーチを途中で止めさせることのできる人がいるはずないからである。

鮎川は「私の学校生活で、一番楽しかったのは、山高の3年間であった」としばしば漏らしている。

こんなこともあった。高校時代、鮎川が友人5人と湯田の田舎道を散策していたときのことである。突然「誰が一番飛ばすか」と5人が放列を揃えて発射した。鮎川はその様子を鴻南会で披露したとき、演壇で実際に演じようとしたのである。慌てた幹事が止めに入ったという。

なお、そのとき鮎川が何番目であったかは聞き漏らしている。

4 ヒットラーと会見

満州重工時代の話である。昭和15年、駐満ドイツ公使のワグネルが、満州国の大豆とドイツの機械とのパートナーを提案してきた。

当時のドイツは対英作戦に総力をあげていて重工業はフル生産で稼働していたが、油脂や飼料の供給は不足していたのでこの話は歓迎であった。ドイツ側からは引く手あまたで、現地では大豆の配分案がまともでない。結局、ヒットラー総裁の裁断をおおぐことになり、鮎川はベルリンに飛んだ。

ヒットラーは言った。「経済が政治をリードするというのは間違いであり、政治が経済をリードするのだ。大豆や飼料も政治で解決できるが、それを今採りあげるつもりはない。今ドイツは戦備が第一で、大豆の見返りに機械を外に出す余裕はない」

ヒットラーは言葉を続けた。「ドイツは何でも日本より進んでいるが、唯一かなわないものがある。それは国体、即ち、天皇制である。日本は永遠にこれを守り続けることが大切である」

さすがの鮎川もヒットラーの見識に感心した。なお、帰国途中にスターリンと会うことになったが、鮎川は突然発熱し、それはかなわなかった。

5 大原社会問題研究所を援助

大原孫三郎は家業の倉敷紡績をはじめ中国銀行や三重紡績の社長を歴任した関西財界の重鎮である。

彼は日本に泰西名画を紹介するため大原美術館を設立し、一般に公開したことで有名であるが、一方で、大正8年、日本で社会運動が勃興するや、その研究のために、私財を投じて、社会問題研究所を設立した。森戸辰男・高野岩三郎・大内兵衛など一流の社会科学者を集めて、日本の労働運動研究の一大拠点とした。

その蔵書はレーニン研究所やマルクス・エンゲルス研究所とならんで世界のトップクラスであった。

昭和に入ると、日本は次第に軍事色に染まり、研究所への風当たりは強くなってきた。嵐が過ぎるのを身をひそめて待っている状況であった。孫三郎が亡くなつて援助が途絶え、研究所の収入は出版物の印税だけとなり、それでは所員の給与や研究所の経費を賄うことはできない。大内兵衛が「蔵書の一部を処分したいが、適当な譲渡先はない

ものか」と知人の三宅晴暉に相談した。貴重な蔵書を散逸させないために、まとめて購入する人を望んだのである。

三宅は熟慮のうえ、日産コンツェルン総帥の鮎川に話をもちこんだ。

事情を聴いた鮎川は「このような時代であるからこそ、大原研究所のような基礎研究を続けることが大切なのである。大原研究所の蔵書は貴重なもので一度手放すと、二度と手に入らないものだ」と聞いて「よし、お手伝いをしましよ」と即断した。

そして、鮎川の退職金でできた義済会から年3万円を援助することが決まった。そして、研究所の運営については一切口出しをしないことも付け加えた。紐のつかない援助である。この援助は昭和21年まで続いた。こうして蔵書の散逸を防ぐことができ、その後、法政大学が引き継いだと聞いている。

大内はこの行為に感動して、「鮎川さんの義拳は崇高としか言いがたい」と後々まで感動しきりであった。

6 正力松太郎とテレビ

正力松太郎は読売巨人軍と日本プロ野球の創始者であり、そして日本で、テレビ事業を最初に立ち上げた進取の気性に富んだ人であった。

彼にテレビ進出を強く勧めたのは鮎川であった。鮎川が渡米したとき注目したのはテレビであった。その頃はすでに放送が始まっていたが、普及前で、アメリカのテレビ会社はどこも赤字であった。しかし、鮎川は「テレビは世界中に普及して、誰もがそれを楽しむようになる」ことを確信した。

帰国して直ちに、ピクサーとコロンビアを傘下に収め、舞台を整えて、研究所と製造を日立製作所に依頼した。しかし、当時の日立は最盛期を迎えた水力、火力発電所の建設と軍需品の製造で手いっぱいであり、弱電にまで手を広げる余裕がなかった。

社を東芝に売却し、日産コンツェルンの事業を満州に移転した。

戦後、ラジオの父といわれたド・フォール博士の友人、皆川芳造がテレビの話をも鮎川のところへ持ちこんできた。しかし、残念なことに当時の鮎川は巢鴨の收容所から出所したばかりで、経済活動を一切禁じられていたので断念せざるをえなかった。

テレビ事業は必ず成功するという確信を持っていた鮎川は、白羽の矢を正力松太郎にたてた。「今の日本でこの大事業を任せられるのは君しかない」と力説してテレビ進出を決心させた。



正力松太郎氏と懇談・福田屋で—昭和32年8月22日—

テレビであるから、進駐軍との交渉や資金調達など苦心の連続であったが、「君しかいない」という鮎川の言葉を通じて頑張り通したと、後に正力は述懐している。

日本テレビが10周年を迎えたとき、鮎川から自筆の達筆な祝賀の漢詩が正力に届けられた。正力は終生それを大切にしていたという。

7 巣鴨大学

戦争が終結した昭和20年8月、鮎川は河合良成(農林次官)・石黒忠厚(元農林大臣)・渋沢敏三(元日銀総裁)・八田嘉明(元鉄道大臣)・八木秀次(八木アンテナ博士)らと図って、日本再建の研究会設立を計画した。戦地から引き揚げてくる復員兵士の活用がメインテーマであったが、GHQから差し止められた。

そしてその年の暮、準A級戦犯容疑者として巣鴨拘留所に収容された。

鮎川は落胆していない。あくまで前向きな姿勢を貫いた。逆に、そこで過した全寮制生活を通じて、得るところ大であったので、収容所を「巣鴨大学」と命名した。収容所の入所は「入

学」であり、収容所からの出所は「卒業」である。後にマッカーサーに提出した手紙は「卒業論文」と称した。鮎川は戦犯にはならないと確信していたので、入所者が世間の肩書を外した裸の姿を観察することができ、絶好の人間研究になったのである。

当時の収容所ではこんなことが頻発した。

長い鉛筆は短いものにする替えられ、給食の中身や分量はヤミ取引されて物議をかもし、入浴の際のレット剃刀は早い者勝ちという有様であった。

鮎川に対する戦犯容疑は満州重工建設と経営に関するものであった。数十日にわたって執拗な尋問が行われたが、アメリカ人にはついに鮎川の真意を理解することができなかつた。彼らは「鮎川はマジシャンだ」と言って脱帽した。

巣鴨学校で一番ありがたかったのは一日中が自由時間であることであつた。社に出てから寸暇を惜しんで働きどうしであつた鮎川に、神様が下された贈り物だと感謝した。

この時間を活用して、鮎川は日本再建案の構築という大仕事に取り組んだ。

到達した結論は、今後の日本の国づくりは「道路」と「水力」と「中小企業」の三本立てであるということであつた。

そこで、マッカーサー元帥に対して次の要旨の論文を提出した。巣鴨大学の卒業論文である。

「第二次世界大戦の終結を契機として、将来、絶対平和の世界を作り上げるための唯一の方法は、勝つた国が負けた国を裁判するのではなく、勝つた国が真つ先に軍備を全廃することである。それには元帥自身が軍服を脱ぐこと、それから元帥の置き土産として米国の極東軍備費として、日本にマッカーサー道路網を思いきり整備しておくことである。そうすればマッカーサーは日本の神様になるだろう」

これに対し、副官から、元帥の申し付けだといって手紙を届けてきた。これは異例のことであると申し添えがあつた。

こうしてめでたく巣鴨大学を卒業して自宅に帰つた

鮎川に、一番最初にかつてきたのは、昭和天皇からの慰労の電話であつた。

8 身辺清潔

政界や財界の大物の周辺には艶っぽい話がつきものであるが、鮎川に限ってはそれが皆無であつた。

鮎川は語っている。

「吾輩は若い時分から働くのが好きで、人の倍以上働いたつもりである。睡眠時間も惜しんで仕事一筋で来た。酒や女に興味がなく、煙草は吸わず、ゴルフもやらず、映画・演劇・音楽などの趣味も持たない。

しかし、努力だけで成功したかという点、そうではない。6割以上は運であつた。」

9 我が道終わりぬ

「卒業」後の生活は厳しかった。

しかも、鮎川は財閥に指定され、全財産を凍結された。その中から僅かばかりの生活費をGHQから支給される有様であつた。

それでも鮎川はめげない。自分が考えた三つの目標が実現できるかどうかを実地調査するために、全国を飛び回るのであるが、その状

況は割愛したい。

鮎川も病には勝てなかつた。昭和41年4月、胆石手術後、面会謝絶の状態で一進一退を繰り返していたが、翌年2月13日死去、2月15日密葬、17日東京築地本願寺で葬儀ならびに告別式が行われた。参列者は三千人を超えたという。

従三位勲一等、法号 仁光院殿徳善義齋大居士。墓所は多磨霊園、山口市の洞春寺に分骨されている。

平成29年1月に連載を開始して4年目を迎えた今回「鮎川義介 我が道を往く」が無事完結しました。この間、機関誌「鳳陽」に全9回掲載し、松野浩二顧問(学)には大変なご労苦をおかけしました。

日立金属の社長、会長相談役を永年務められた松野顧問でなければ、書き得なかつた興味深い事実やエピソードも随所に織り込まれており、会員の皆さんからも随分反響がありました。改めて、深く感謝申し上げます。 事務局長 石島

これまで、そしてこれからも「信頼」と「価値」を提供してまいります



大中物産株式会社

取締役会長 河窪 博史 (学24)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-11 七十七銀座ビル

TEL: 03-5550-5555 FAX: 03-5550-5575

URL <http://www.daichu.co.jp/> E-mail contact-us@daichu.co.jp

同期会だより

大学13期

—山口県在住会—

令和元年5月15日(水)、
山口市小郡「山口グランド
ホテル」にて6名の参加で
開催しました。

13期会(山口県在住)の名
簿では、すでに亡くなられ
た方を除き18名の登録があ
りますが、「住所非公開」や
「健康面に不安」などがあ
られるため、現実には会合
に参加可能な方は限られて
います。今回参加の6名は
毎回集合するメンバーであ
り、気心の知れた歓談に盛
り上がったひと時を過ごす



ことができました。

この会は、いつ頃山口県
在住者13期会として集まる
ようになったのか明確な記
録はありませんが、湯田温
泉で全国大会の引き受けを
するなど、それなりの活動
をしながら毎年集まってお
りました。近年は会員の高
齢化により集まるメンバー
が固定化している状況で、
前回の会合の際に、今後は
毎年5月の第3水曜日の昼
に会を開催することを決め、
今回令和元年ということも
あり、開催した次第です。

今回の会合では、不参加
の中西正彦君から「善行中
学校生徒を顕彰、表彰する
制度の創設」をこの13期会
で検討してほしいとの文書
による提案があり、議論し
たところ、現体制では実行
に無理があるとの結論を出
したところです。

今後とも地元の13期同期
会として、存在感のある活
動をするべく知恵を出して
いきたいと誓い散会しまし
た。(森 昌幸 記)

【出席者】(敬省略)

嘉屋征興(岩国市)、高野 寛、
野村照男、淵上洋一(山口市)、
森 昌幸(宇部市)、三好健二
(萩市)

寮 歌 祭

—2019年

第59回日本寮歌祭開催—

中央寮歌祭は、本年度よ
り、寮歌伝承を目的に、平
成22年50回にて終了した日
本寮歌祭と終了後代わりに
8回開催された中央寮歌祭
を引き継ぎ第59回日本寮歌
祭として再発足しました。

令和元年8月4日(日)、
日暮里ホテルラングウツド
にて58校450名の参加で
華やかに開催されました。

舞台には各校の幟が垂れ
さがり、法被に鉢巻姿に満
ち溢れ会場はレトロな雰囲
気で熱気一杯となりました。
当校は長老96歳西村克
哉(高商38)さんが元気な姿
を見せていただき総勢8名



の参加となりました。

旧制大阪高等学校が最
先に舞台上がり、寮歌祭
がスタート。当校は山口高
の応援で舞台上がり、そ
のすぐ後10番手で、木村進
(学11)リーダーの檄に続き
鳳陽寮歌「花なき山」を小
旗を手に熱唱しました。

その後も皆様はお酒、食
事を楽しみ、また他校の寮
歌を口ずさみ、会話も弾み
ました。最後は参加者全員
で「蛍の光」を合唱、散会と
なりました。

今回はNHKが取材に訪
れ、当日845ニュースに
紹介されました。

日本寮歌祭は今年も8月
に開催されます。参加ご希
望の方は東京支部事務局ま
でご連絡ください。支部H
Pでもご案内いたします。

残念なことに、西村さん
が、令和元年9月にお亡く
なりました。心より
ご冥福をお祈りいたしま
す。

(東京支部 高木 記)

【参加者】(敬称略)

西村克哉(高商38)、渋谷尚男
(学1)、井上満昭(学6)、芥川
孝、木村進、河村威生(学11)、
高木寛(学19)、塩塚保(学23)

—大学18期卒後半世紀 同期会のご案内—

日時：令和2年5月26日(火)
17:30～(懇親会)

場所：ホテル ニュータナカ
(山口市湯田温泉)

5月26日(火)大学訪問・記念植樹・
懇親会・蛍鑑賞

5月27日(水)山口市内見学・ゴルフの予定

同期会事務局 江村正博
(TEL:090-9344-6458)

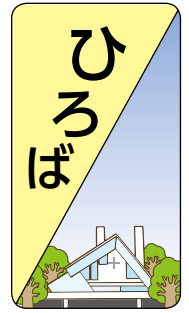
大学13期(昭和40年卒)の 諸君へ

卒業55周年記念(喜寿を祝う)
同期会の案内予告です

日時：令和2年5月20日(水)
場所：山口市湯田温泉「ユウベルホテル松政」

母校訪問(学部長の講話等)、親睦ゴルフ会
(於 宇部CC)等計画しておりますので、多
数の参加を期待しています。

幹事 久重 剛志 江藤 洋一 藤村 守
山本 宏 西田 隆一 淵上 洋一



山口大学経済学部附属 商品資料館について

明治38(1905)年、山口大学経済学部の前身である山口高等商業学校が創設されると同時に商品学の授業の研究資料として各種商品の収集が始められ、明治41(1908)年、商品陳列室が設置されました。

また、その後も一貫して商品資料の収集が続けられ、平成7年(1995)年には、商品陳列室を発展的に継承する形で、昔の亀山校舎の本館正面を偲ばせるデザインが施された商品資料館が建設されました。

現在、商品資料館には、永年にわたって収集された主な産業商品や輸出入商品等、約8千点の貴重な資料が収蔵されています。

特に、陶磁器類収蔵品の中には、金子秀(経40)様ご寄贈の萩焼の人間国宝、第十代三輪休雪の茶碗があります。また、陶芸家の河井寛次郎の初期の作品を何点

も所蔵しており、全国各地で開催される河井寛次郎の作品展には収蔵作品の貸出しを行いました。

収蔵品の中には、このように美術品、骨董品と思われる品も数多く存在しますが、収集した当時は、あくまでも商品学という見地から収集されたもので、商品毎に生産地と購入価格等が記入されており、学術的にも高い評価を得ています。

また、貨幣収蔵品には、

第一次世界大戦時にドイツで実際に流通していた珍しい陶貨や、第一次世界大戦後、ドイツを襲ったハイパーインフレ下で流通した、平時では考えられないような10兆マルク札などがあり、



戦火によってもたらされた経済の混乱を今に伝えています。

経済学部では、全国的にも珍しい施設であるこの商品資料館の有効活用を図るべく、活性化への取組を進めています。

まず、平成28(2016)年、「商品資料館活性化ワーキンググループ」を設置して、現状把握のための調査

や活性化のための検討を行いました。

平成29(2017)年には「商品資料館企画室」を立ち上げ、学外から2名のアドバイザーを招聘して、今後の商品資料館の方向性を定める上で、専門的見地等からの貴重な意見をいただいています。

平成30(2018)年度には、平成13(2001)年以降休刊していた「商品資料館便り」を復刊し、商品資料館を広くPRしていくこととなりました。

商品資料館は、山口大学吉田キャンパスの経済学部敷地の一画、東亜経済研究所の隣に建っており、平日の午前10時から午後4時まで開館しています。興味のある方は、是非、お立ち寄りください。

事務局長 石島



本号の内容

新年のご挨拶	1
学園だより	2~4
アンケート結果に基づく 具体策への取組	5
支部だより	6~10
動静	11
鮎川義介が道を往く(9)	12~14
同期会だより	15
寮歌祭	15
ひろば	16

事務局から

昨年12月の一ヶ月間、県立美術館北側から鳳陽館に至る亀山公園の一面で「日本のクリスマスは山口から」と題したイルミネーションが設置されました。今年は、内容も充実して、鳳陽館の記念植樹や松の木もライトアップされました。

日本で初めてクリスマスが祝われた「クリスマス発祥の地」山口市では、12月、山口市はクリスマス市になる(仮称)として、市内各所でクリスマス様々な催しが開催されます。ホワイトクリスマスを過ごすことができるとは思いません。是非、冬の山口も訪れてみてください。(一)

YM PREMIUM
BUSINESS CLUB

ワイエム プレミアムビジネスクラブ

著名講師陣を招き山口FGエリアで高品質セミナーを開催

これまでの招聘講師の一例

- 楠木 建氏(一橋ビジネススクール教授)
- 松本 晃氏(元カルビー株式会社代表取締役会長兼 CEO)
- 岩瀬 大輔氏(元ライフネット生命株式会社代表取締役社長)
- 岩田 松雄氏(元スターバックスコーヒージャパン代表取締役最高経営責任者)など



お問い合わせ先



山口フィナンシャルグループ
ワイエムコンサルティング株式会社

住所：山口県下関市細江町2丁目2番1号原弘産ビル5F
TEL：083-250-6411